

Subject / 科目	
2011年度カリキュラム	フィールド・スタディ
2017年度カリキュラム	国際関係フィールド・スタディ
申請可能セメスター	3~7セメスター(2019年度秋セメスター時点) *詳細は募集要項をご覧ください。
プログラム名	沖縄から考える戦争と平和 (総田 芳憲)

1. プログラム名	沖縄から考える戦争と平和													
2. 担当教員	総田芳憲													
3. 実習地	那覇市、糸満市、宜野湾市、沖縄市、名護市													
4. 開講年度	2019年度													
5. 開講時期	冬セッション													
6. 開講言語	・日本語 [実習で使用する場合があります。日本語]													
7. 単位数	2単位 -セメスターの登録可能単位数の上限に含まれません。													
8. プログラム概要	<p>沖縄は、太平洋戦争中の日本において最大規模の地上戦が展開された場所であり、島民の4分の1以上が死亡するという多大な犠牲を被った。敗戦後、日本は1952年に主権を回復したが、沖縄は1972年まで米国の統治下に置かれ、米軍の前線基地とされた。本土復帰後も、米軍基地は残されたままで、日本で最も米軍基地が集中しており、その重い負担と太平洋戦争中の経験が、沖縄県民とそれ以外の日本人との関係に濃い影を落としている。本プログラムでは、沖縄が置かれてきた状況に対する理解を深めることを通じて、戦争と平和の問題について再検討することを目的としている。</p>													
9. プログラムのねらい	<p>本プログラムの主な狙いは、以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 沖縄戦が起こった理由、被害が市民にまで拡大した理由を理解すること。 2. 戦後、沖縄が米国の統治下に置かれた理由、また、米軍統治下の沖縄の状況について理解すること。 3. 日本への復帰後も沖縄に米軍基地が集中している理由を理解し、基地集中が適当であるかどうかについて考察すること。 													
10. 参加費(目安)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>費用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現地交通費</td> <td>¥13,000</td> </tr> <tr> <td>委託費</td> <td>¥3,200</td> </tr> <tr> <td>謝礼</td> <td>¥8,000</td> </tr> <tr> <td>食費</td> <td>¥8,000</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>¥32,200</td> </tr> </tbody> </table>	項目	費用	現地交通費	¥13,000	委託費	¥3,200	謝礼	¥8,000	食費	¥8,000	合計	¥32,200	<p>[上記に含まれないもの]</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 食費 ➢ 保険料金 ➢ 沖縄までの日本国内交通費
項目	費用													
現地交通費	¥13,000													
委託費	¥3,200													
謝礼	¥8,000													
食費	¥8,000													
合計	¥32,200													
11. 履修の目安	太平洋戦争中の沖縄に問題に関心を持っていること。													

Subject / 科目	
2011年度カリキュラム	フィールド・スタディ
2017年度カリキュラム	国際関係フィールド・スタディ
申請可能セメスター	3~7セメスター(2019年度秋セメスター時点) *詳細は募集要項をご覧ください。
プログラム名	沖縄から考える戦争と平和 (総田 芳憲)

	<p>冷戦期の沖縄に関心を持っていること。 冷戦後の沖縄、特に、基地問題に関心を持っていること。</p>
12. 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 太平洋戦中の沖縄について理解を深める 2. 冷戦期の沖縄について理解を深める。 3. 冷戦後の沖縄、特に、基地問題について理解を深める。 4. 日米同盟を基軸とする日本の安全保障政策について理解を深める。
13. 授業方法	<p>[事前授業] 事前授業は3コマを予定。太平洋戦争中、冷戦期、冷戦後の3期における沖縄の状況について基礎的な知識を習得してもらう。</p> <p>[実習] 沖縄本島において6日間の実習を行う予定。太平洋戦争中の沖縄について理解を深めるため、沖縄本島で、平和記念館などの施設、戦跡を訪問する。また、現地ガイドの方から説明を受けたりする。冷戦期、冷戦後の沖縄と米軍、日本政府との関係について理解を深めるために、資料館などの施設を訪問すると共に、基地の町を訪問し、そこで講話を聴く一方で、現地の人達に聴き取り調査を行う。</p> <p>[事後授業] 事後授業は3コマを予定。実習を通じて、どういったことを考察したのか、一人一人発表してもらう。また、沖縄に在日米軍基地が集中していることは、安全保障戦略的に合理性があり、適当なことなのか、それとも不合理で是正されるべきことなのかについての見解を各人発表してもらい、教員と参加者全員で、討論を行う。</p> <p>[多文化協働学修に関する環境と手法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現地実習中、ガイド、講師の方をはじめ、世代や育ってきた環境が異なる現地の方々と話す機会がある。 2. 少人数のフィールド・スタディであるため、現地実習中、履修者の間で意見交換をする機会が多い。全員での意見交換の時間も設けるが、現地での移動中や食事中など任意で意見交換を行う機会は沢山ある。 3. 事後授業において、発表と討論を通じて、履修者間での意見交換を行う。 <p>実習地である沖縄は、日本に併合される前、琉球国という独立国家であった。日本に併合されてからの沖縄は、日本政府から他の地域とは異なる扱いを受けてきた。沖縄は日本の一部ではあるが、他の地域とは大きな差異がある状況である。この授業では、事前授業、現地実習、事後授業を通して、その状況について学ぶ。それによって、国内における社会状況の多様性について理解を深めることが出来る。</p>

Subject / 科目	
2011年度カリキュラム	フィールド・スタディ
2017年度カリキュラム	国際関係フィールド・スタディ
申請可能セメスター	3~7セメスター(2019年度秋セメスター時点) *詳細は募集要項をご覧ください。
プログラム名	沖縄から考える戦争と平和 (総田 芳憲)

14. スケジュール(暫定)	[事前授業]														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>日</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1/8(水)</td> <td>太平洋戦争中の沖縄</td> </tr> <tr> <td>1/15(水)</td> <td>冷戦期の沖縄</td> </tr> <tr> <td>1/22(水)</td> <td>冷戦後の沖縄</td> </tr> </tbody> </table>	日	内容	1/8(水)	太平洋戦争中の沖縄	1/15(水)	冷戦期の沖縄	1/22(水)	冷戦後の沖縄						
	日	内容													
	1/8(水)	太平洋戦争中の沖縄													
	1/15(水)	冷戦期の沖縄													
	1/22(水)	冷戦後の沖縄													
	[現地での実習]														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>日</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2/20(木)</td> <td>宿泊先への到着</td> </tr> <tr> <td>2/21(金)</td> <td>県立博物館、不屈館などを訪問 嘉数高台公園を訪問</td> </tr> <tr> <td>2/22(土)</td> <td>平和祈念資料館での学習 平和祈念公園内の戦跡などを訪問</td> </tr> <tr> <td>2/23(日)</td> <td>旧海軍司令部壕などの戦跡を訪問</td> </tr> <tr> <td>2/24(月)</td> <td>辺野古訪問</td> </tr> <tr> <td>2/25(火)</td> <td>資料館の訪問、現地のガイドによる平和学習 反戦地主の方による講演など</td> </tr> </tbody> </table>	日	内容	2/20(木)	宿泊先への到着	2/21(金)	県立博物館、不屈館などを訪問 嘉数高台公園を訪問	2/22(土)	平和祈念資料館での学習 平和祈念公園内の戦跡などを訪問	2/23(日)	旧海軍司令部壕などの戦跡を訪問	2/24(月)	辺野古訪問	2/25(火)	資料館の訪問、現地のガイドによる平和学習 反戦地主の方による講演など
	日	内容													
	2/20(木)	宿泊先への到着													
2/21(金)	県立博物館、不屈館などを訪問 嘉数高台公園を訪問														
2/22(土)	平和祈念資料館での学習 平和祈念公園内の戦跡などを訪問														
2/23(日)	旧海軍司令部壕などの戦跡を訪問														
2/24(月)	辺野古訪問														
2/25(火)	資料館の訪問、現地のガイドによる平和学習 反戦地主の方による講演など														
[事後授業]															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>日</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3/4(水)</td> <td>学生による発表、討論</td> </tr> </tbody> </table>	日	内容	3/4(水)	学生による発表、討論											
日	内容														
3/4(水)	学生による発表、討論														
15. 成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 事前授業での課題:20% 実習日誌(その日の実習で調査、検討したことを記載):40%(8%×5日) 事後授業での発表:15% 最終レポート:25% 														
16. 学生への要望事項	<p>現地での実習でより多くの成果を挙げるために、現地を訪問する前に教科書を読み終えておくこと。</p> <p>-海外プログラムに参加するためには、出発から帰国までの期間について、大学が指定する海外旅行保険への加入と大学指定の航空券の購入が必要です。詳細については、受講を許可された学生に対して別途に案内します。</p>														
17. 教科書	<p>沖縄現代史、櫻澤誠、中央公論新社、2015年</p> <p>沖縄タイムス社編集局編『これってホント!?誤解だらけの沖縄基地』高文研、2017年</p>														

Subject / 科目	
2011年度カリキュラム	フィールド・スタディ
2017年度カリキュラム	国際関係フィールド・スタディ
申請可能セメスター	3~7セメスター(2019年度秋セメスター時点) *詳細は募集要項をご覧ください。
プログラム名	沖縄から考える戦争と平和 (総田 芳憲)
18. 参考文献	NHK スペシャル取材班『NHK スペシャル沖縄戦全記録』新日本出版社、2016年 大田昌秀編『決定版写真記録沖縄戦』高文研、2014年 新崎盛暉『日本にとって沖縄とは何か』岩波書店<岩波新書>、2016年 宮城大蔵、渡辺豪『普天間・辺野古歪められた二〇年』集英社<集英社新書>2016年 阿部岳『ルポ沖縄国家の暴力:現場記者が見た「高江165日」の真実』朝日新聞出版、2017年 ヨハン・ガルトゥング『日本人のための平和論』ダイヤモンド社、2017年 宮川徹志『僕は沖縄を取り戻したい異色の外交官・千葉一夫』
19. 上記以外	
20. その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 募集人数:15 ・ 最少実施人数:5 ・ 派遣地域安全情報:レベル0